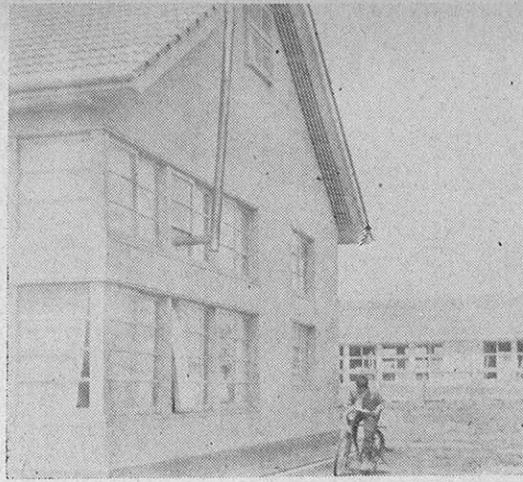


★……農民会館や農業講習所も完成に近い。



★……新しい時代の実験研究は、それにふさわしい施設が必要だが、試験場のそれらの設備は各実験室の有機的つながりをもたせよく近代化されている。



★……建設の鎚音もたかく、整然と築き上げられていく実験室の群。やがて近代的な設備を擁し、広く青い大地の中にその白いスマートな姿を見せる日も近い……

(原種)種芸の方で決定した品種を増殖し、採種圃へ流す。

(園芸)野菜奨励品種の試験。新しい品種の育成。三〇坪の温室とガラス室。

(病虫)低温、恒温室による菌の培養、各種研究。

(調査)県内の土質の調査。こゝで土壤改良のいわば「処方箋」がつけられる。

(肥料)地域毎の施肥基準がつけられる。

(経営)農村の営農診断。つまり県下の四つの営農試験地のデータにより営農技術の組立てが実験的に行われる。(農機具)推奨農機具の導入と技術的な啓蒙。

以上は本場の仕事の内容だが、本場で解決できない問題の実験は地域の事情に即して次の五つの分場で行われている。

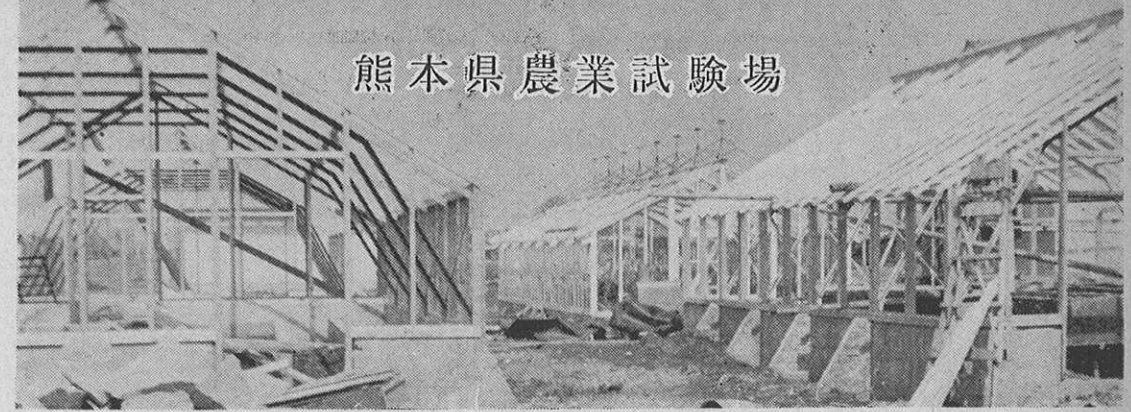
### 五つの分場

高冷地的気候条件に対して阿蘇寒冷地試験場。採種を主として矢部試験場。秋落栽培について球磨試験場。浅耕土、高湿地栽培について天草試験場。それに新しく開設される八代営農試験場がある。

農業試験場の使命はあくまでも農業技術の試験指導にあるが、目下の問題としては、従来まで立遅れがちな土地利用の問題の克服ということで、早期栽培をはじめ新しい作付技術体系の確立が今大きくクローズアップされてきている。

## 施設めぐり

### 熊本県農業試験場



☆ 科学がめざましい進歩をとげている今日、農業経営も又今までの立遅れを克服しつゝ、新しい技術体系の確立を急いでいる。そしてその指導的役割をもつゝ

★……いわゆるビニールによるトンネル栽培……毎日見学者が押しかけている。



★……試験場の庭／試験圃の麦は青く伸びている。

唯一のセンターが農業試験場である。そこで、今、完工を間近にひかえている熊本県農業試験場を訪ねてみることにした。

### 新しい……★

#### 県農業試験場の姿

川尻電車の下近見停留所降りると、青い麦畑に囲まれて、いま移転中の熊本県農業試験場の建物が白く点在しているのが目立つ。六十余年の古い歴史をもつ旧試験場は熊本市出水町にまだその一部を残し、大半がすでに新しい試験場に移転している。この新しい試験場はほぼ完成に近い姿だが落成は十月頃の予定。

#### 主な施設

水田六町、畠五町(敷地二町五反)が全面積。主な施設は、本館、化学試験室、病害虫試験室、農機具実験室、温室、ガラス室、網室、昆虫飼育室、球根貯蔵室等の他に、農民会館、農業講習所、宿泊所が本場内に併設されている。このほかかんがい施設、耕地整理、鉄道交叉施設農道整備あるいわ造園施設などの設備も急がれている。

次に試験場の仕事のあらましを各係別に紹介すると次のようになっている。

#### 仕事のあらまし

(種)水田、畑作地の試験。主に県奨励品種決定試験や早期栽培の作形研究。